

# 県政この一年



平成24年の県政の動きを、「福井新々元気宣言」の4つのビジョン「元気な産業」「元気な社会」「元気な県土」「元気な県政」に沿ってご紹介します。

## 北陸新幹線の県内延伸が決定

福井の将来の発展につながる北陸新幹線の敦賀までの着工が、昭和48年の整備計画決定から38年余りの歳月を経て、6月29日に決定しました。この決定は、県民一丸となった長年にわたる努力の成果であり、高速交通体系の整備に大きな前進となりました。

北陸新幹線は、完成し、利用してこそ、県民のメリットが最も大きくなります。事業主体の鉄道・運輸機構では、今年度内に、新北陸トンネルの一部区間の工事発注を予定しているほか、中心線測量に着手しますので、沿線の皆様をはじめ、県民の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

また、北陸新幹線の開業は、まちづくりや観光などで、民間の事業者はもちろんのこと、福井県が発展する絶好の機会ですので、ぜひこのチャンスを活かしてください。

県としては、一年でも早い敦賀までの完成・開業の実現と、大阪までのフル規格による全線整備に向け、最大限の努力を重ねていきます。



## 元気な産業

### 技術と戦略で勝ち抜く福井の産業

#### ○ 敦賀港の利便性が向上

日本海側の拠点港である敦賀港では、今年のコンテナ貨物量が過去最高を記録したほか、韓国を経由し、敦賀と中国を結ぶ航路が6年ぶりに再開されました。

この航路の就航により、中国・韓国との取引がしやすくなりますので、荷主や物流事業者の方は、ぜひ敦賀港をご利用ください。



飛躍的に増加しているコンテナ貨物量

#### ○ 新成長産業の創出を支援

工業技術センターが、県内の繊維企業などと共に、球状の小型太陽電池を織り込んだ布の製造技術を世界で初めて開発しました。曲げた状態でも発電できるため、平板な太陽光パネルでは設置が難しいドーム型の屋根や衣服などへの使用が可能となります。

平成27年度の製品化を目指し、さらに研究を進めていきます。

#### ○ 嶺南地域の経済・雇用対策を充実

原子力発電所の運転停止の影響を受けている嶺南地域の経済・雇用対策として、嶺南の中小企業が行う新商品の開発の支援や、離職者を対象とした緊急合同面接会、嶺南の魅力的な商品を嶺北のお店で販売するための物流の仕組みの整備を行いました。

1月からは、嶺南地域で展示販売会を開催するなど、消費の拡大につなげていきますので、県民の皆様のご来場をお待ちしています。

## 新しい方向をひらく農林水産業

### ○ 福井米の品質を向上

「五月半ばの適期田植え」や米の大粒化などにより、福井米の品質を高めてきた結果、今年の本県産コシヒカリの1等米比率は、全国平均より14ポイント高い90%と、全国で6位、北陸4県では最も高くなりました。

また、農薬を使わないなど、こだわりのある米にのみ表示する統一名称「にっぼんのふるさと福井」が11月に商標登録されました。この名称を用いた米が大都市圏の百貨店で販売されるなど、ブランド米としてのPRが進みました。今後も、福井米の品質を向上させ、評価を高めていきます。



こだわり米に表示して  
大都市圏で販売

### ○ 地魚の消費を拡大

地魚の消費を増やすとともに、街中の賑わいを創出しようと、今年から「旬の地魚テント市」を5月から11月までの毎週金曜日に開催しました。また、福井市中央卸売市場の「近海今朝獲れ市」の取扱量を増やすなど、新鮮な地魚の販売ルートを増やしました。

県民の皆様もぜひ、地元のおいしい魚を味わってください。

## 観光とブランドを産業の柱に

### ○ 「ふくい 味の週間」で誘客促進

福井の食の魅力を県内外へ広めるため、おいしい食が出揃う11月の第2日曜日から第3日曜日までを「ふくい 味の週間」と定め、食を「学び、味わい、楽しむ」催しを各地で一斉に開催。味の週間を締めくくるメインイベント「ふくい 味の祭典」には、3万人を超える方が来場しました。

今後、飲食店などの更なる参加や、同じ時期に行われる食のイベントとの連携により、味の週間をさらにスケールアップし、福井の食を目当てに全国から観光客が訪れる「食の國ふくい」を目指していきます。



味の週間に福井の食を満喫

### ○ ダントツ日本一の「恐竜王国」を目指して

全国から注目を集める一大イベントである、今年の恐竜博物館の特別展は、恐竜が生きていた時代に空を飛びまわっていた「翼竜」をテーマに開催。巨大な翼竜の復元模型などが、全国から訪れた恐竜ファンを魅了しました。

また、特別展に合わせて、福井と勝山の街なか2会場で「恐竜・地質科学フェスタ」を初めて開催したところ、家族連れなどで賑わいました。

さらに、恐竜の魅力を全国に広めるため、3月には東京の丸の内、夏には横浜で恐竜展を開催し、県外の方へ大いにアピールしました。

子どもも大人も楽しめる恐竜博物館へ、ぜひお越しください。



大迫力の恐竜骨格が展示されている  
世界最大級の恐竜博物館

# 元気な県土

## 県土に活気の高速度交通時代

### ○ 北陸新幹線の延伸に向けたまちづくり

北陸新幹線の県内延伸効果を最大限に発揮するため、沿線の市町が主体的に進めるまちづくり検討会などの開催を3年間支援することとしました。

また、県都の将来像を描くための議論が2月からスタート。県都デザインフォーラムを11月に開催するなど、県民の意見などをもとに「県都デザイン戦略」を策定していきます。

## ○ 北陸新幹線金沢開業等への対応

平成26年度には、北陸新幹線が金沢まで開業し、舞鶴若狭自動車道が全線開通するほか、中部縦貫自動車道の福井北・松岡間が開通する予定であり、首都圏や関西・中京など都市圏との間で人や物の流れが拡大する、また嶺南・嶺北の一体化が強まるチャンスです。

そこで、今年度は、あわら温泉と恐竜博物館、永平寺を結ぶ直行バスや、若狭の秘仏を巡るツアーバスを試験運行したほか、北関東・信越地域への観光プロモーション活動などを行いました。

今後、あわらや敦賀などの観光地としての魅力を高める活動などを進めていきますので、観光業や飲食業の方をはじめ、県民の皆様も、ぜひこのチャンスを活かしてください。

## ○ 高速交通ネットワークの整備を促進

中部縦貫自動車道の勝山・大野間が、今年度内に開通する予定です。また、和泉・油坂間の整備が4月に認められ、県内の全線開通に向けて大きく前進しました。

舞鶴若狭自動車道は、敦賀ジャンクションの橋りょう架設工事が完了するなど、平成26年度の全線開通に向けた工事が、着実に進んでいます。

これらの道路網の整備を通して、人や物の行き来を活発にしていきます。



着々と工事が進む舞鶴若狭自動車道  
(敦賀JCT付近)

## ○ 地域鉄道の利便性を向上

福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗り入れが、沿線市町、国、事業者などによる事業検討会議において、越前武生駅から鷺塚針原駅の間で実施することで合意されました。今後、相互乗り入れに向けて、準備を進めていきます。

# 原子力の安全と信頼の確保に全力

原子力を含むエネルギー政策は、国民生活全体の発展と国家の安全保障に直接関わる重要事項であり、本県は「安全の確保」と「原子力の重要性」を一貫して国に強く訴えてきました。

これを受け、6月8日、野田前総理自らが「国民生活を守るため大飯原発3、4号機を再稼働すべき」と表明。7月に福島原発事故後全国で初めて、大飯原発が再稼働しました。再稼働に際しては、本県の要請により国が設置した「特別な監視体制」に、本県の専門職員も参加して安全確保に万全を期しました。

今後も、新たな安全基準の早期策定、使用済み核燃料の中間貯蔵対策など原子力の様々な課題について、立地自治体の立場から国に強く要請していきます。

# 元気な社会

## 日本のモデル「福井の教育」

### ○ 幼児教育を充実

子どもたちが幼少期から高校まで夢や希望を持ち続け、実現できるように一貫して支援していく「福井型18年教育」を推進しています。

この一環として、幼児教育に関する本県初の専門機関「幼児教育支援センター」を11月に設置。センターでは、保育士や幼稚園教諭が小学校のカリキュラムを学ぶほか、保護者や祖父母が集まる場で家庭教育に関する講座を開催しますので、関心のある方は、ぜひお申し込みください。



保育士や幼稚園教諭の  
指導力を高める研修を開催

### ○ 一貫性を重視した小中高教育

幼児教育を受けた子どもたちが、小・中・高と学力を高めていけるよう、5月に「学力向上センター」を設置しました。センターでは、中学校と高校との連続性を高めるため、中学校と高校の教員が一緒に公開授業や授業研究などを行いました。

また、中学校と高校の6年間を同一の公立学校で学ぶ「併設型」の中高一貫教育の検討も開始。高校の学習内容を中学校で先取りした学習など、生徒の個性や能力を伸ばす弾力的な教育課程の実現を目指していきます。

### ○ 聞ける、話せる英語教育

日常的な英会話がができる高校生を増やそうと、3月に、高校2年生100人を米ニュージャージー州などへ15日間派遣しました。この結果、参加した高校生のTOEICの平均点数が、大学の新卒者レベルにまで上がりました。

今後も、海外への派遣などを行い、子どもたちの英語力を高めていきます。



アメリカで英会話を学ぶ高校生

### ○ 即戦力を育てる職業系教育の充実

福井の産業の将来を担う人材を育成するため、今年度から新たに、県内の工業・農業系高校の生徒が、企業などの生産現場で10日間程度にわたり実践的な研修を実施。生徒は、現場で使われている知識や技能を修得しました。

また、企業の経営者や技術者を学校に招き、授業内容などへのアドバイスをいただきました。

ふるさとの産業を元気にしたい中学生の皆様は、ぜひ職業系高校を目指しましょう。



現場で職業スキルを修得

## すぐれた医療と支えあいの福祉

### ○ がんの早期発見・早期治療を

全ての市や町で料金を統一したり、未受診者に対して電話で受診を勧めるなど、がん検診を受診しやすい環境を整えた結果、受診率が5年連続で上昇しました。

また、「陽子線がん治療センター」では、昨年3月の開所以来、200人を超える方の治療を実施。嶺南地域の住民が利用しやすくなるよう、センターの医師が、12月から敦賀市の病院で外来診察を始めました。

がんは、早めの発見で治る可能性が高まりますので、身近な場所での受診を心がけましょう。



最先端の陽子線がん治療で健康長寿をさらに向上

### ○ 障害者の賃金を向上

障害者の賃金向上を目指し、障害者が、企業の従業員と同じ仕事場で、能力に応じて仕事を分担するという新しいスタイルの働き方を、県内の企業で12月から試行しています。

今後、モデル事業の成果を活かして、新しい働き方を広げていきたいので、企業の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

## 日本一の安全・安心

### ○ 災害・危機対策を強化

東日本大震災を踏まえ、県独自の津波シミュレーションの結果を公表しました。この結果に基づき、11月の県総合防災訓練では津波を想定した避難訓練を実施したほか、沿岸の市や町のハザードマップ作成などの津波対策を支援するなど、地域の防災対策を強化しています。

また、原子力災害のリスクが大きくなる原子力発電所の近隣地域の防災対策を最優先に考えた避難計画を市や町とともに策定していきます。

いざという時に備えるため、県民の皆さんには、自宅や職場の近くで行われる防災訓練へのご参加をお願いします。



大津波を想定した訓練で坂道をかけ上がる児童と先生

## ○ 災害に強いインフラを整備

大きな災害を未然に防ぐために必要不可欠な足羽川ダムの建設の継続を国に強く求めてきた結果、国土交通大臣が7月に事業の継続を決定しました。今後も、ダムの早期完成を、引き続き国に求めています。

# 元気な県政

## 「希望ふくい」のふるさとづくり

### ○ 地方発の新政策で国をリード

福井県など13県で構成する「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」が、国の抱える課題の解決につながる税制案をとりまとめ、7月に国へ提言。10月には、提言の1つである地球温暖化防止のための税制が実現しました。

今後も様々な政策を提言し、国をリードしていきます。

### ○ 福井の希望を調査

平成21年度から東京大学とともに福井県民の希望に関する調査を実施。12月には、これまでの調査の成果報告会を福井市と小浜市で開催しました。

今後、県民の希望を育めるような施策を進めていきます。

## 国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化

### ○ 福井国体の愛称・スローガンが決定

11月に、1万5千もの応募の中から、福井国体の愛称が「福井しあわせ元気国体」に、スローガンが「織りなそう カと技と美しさ」に決まりました。今後、この愛称とスローガンを県内にくまなく浸透させて、開催の気運を盛り上げていきます。

また、競技力の向上のため、福井国体での活躍が期待できる選手のレベルを高めてきた結果、今年の岐阜国体は24位と、昨年より6位上がりました。今後も強化を進め、福井国体では、開催県にふさわしい成績を目指します。

県民の皆様には、国体に出場する、ボランティアとして支える、また、国体を応援するという、それぞれの立場で積極的にご参加ください。

愛称	福井しあわせ元気国体
スローガン	織りなそう カと技と美しさ